

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 14 日

評価対象事業		評価者	農水課長 鈴木 康之	
市民-25	実施事業	漁港施設管理事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	主管課 農水課 関連課
総合計画上の位置付け	分野	産業振興	施策の方針	農業・漁業の振興

1 事業の目的

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

対象	漁業従事者等	漁港施設維持運営計画及び機能保全計画に基づき、漁港施設の維持管理を行った。 腰越海岸の飛砂防止のための海浜整地業務など漁港区域内海岸の維持管理を行った。
意図	腰越漁港施設の良好な維持管理を行うため。	
効果	円滑な漁業活動の推進を図る。	

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口	176,608人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	世帯数	83,058世帯	
運営資源状況	事業の対象者数		事業の対象者数		
	決算値(千円)	119,945	7,228	当初予算(千円)	27,006
	国県支出金	58,300		国県支出金	
	地方債			地方債	
	その他	56		その他	2,076
	一般財源	61,589	7,228	一般財源	24,930
	人員配置数	1.0	0.6	人員配置数	0.7
人件費(千円)	7,805	4,853	人件費(千円)	5,574	
事業経費運営	総事業費(千円)	127,750	12,081	総事業費(千円)	32,580
	市民1人当りの経費(円)	725	68	市民1人当りの経費(円)	184
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
協働	協働実施済の場合のパートナー	
	事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 漁港施設の維持管理業務経費として必要な経費を計上している。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	腰越漁港については、平成26年度(2014年度)に改修整備工事が完了し、引き続き、市が適正に維持管理を行っていく必要があるため、事業費を削減する余地は無い。 腰越漁港を利用した漁業活動による水産物の供給は、市民ニーズも高いことから、今後も漁港施設の良好な維持管理を継続させていく必要がある。 腰越漁港の指定管理者である腰越漁業協同組合とは常に連携し業務を行っているが、市民利用も踏まえた漁港の有効利用や受益者負担については、今後更なる協議が必要である。 市民等との協働については、指定管理者制度を導入している観点から、現時点での実施は難しいものと考えている。	

令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)	1号泊地の残土の浚渫については、平成32年度(2020年度)以降の実施に向けて関係部局と調整を図る必要がある。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	1号泊地の残土については、腰越漁港を利用している腰越漁業協同組合及び関係部局との調整を行い、漁港施設利用上支障がないため、当面、浚渫は行わず経過観察とした。	<input checked="" type="checkbox"/> 解決 <input type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	腰越海岸では、強い西風により砂が年々堆積し、その量が増えており、護岸の高さに迫るほどになっている。このため、県など関係部局と調整しながら、対応を図る必要がある。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	県内近隣市町の漁獲量(平成30年海面漁業生産統計調査より) 単位:トン								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	143	268	89	269	1,137	4,898	25	62	18,550

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	県内他市町との漁獲量を比較すると、多い市と少ない市町との差が大きく、その中で本市の漁獲量は少ない市の部類に入っている。引き続き、本市の漁獲量が減少しないように、市として様々な支援策を実施する必要がある。
----------------------	---

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	腰越漁業協同組合の正会員数					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
漁業活動を担っている主体であるため。	目標値	40	40	40	40	40	40			
	実績値	39	40	42	42	42	40			
	達成率	97.5%	100.0%	105.0%	105.0%	105.0%	100.0%			

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	腰越地域の漁業活動の担い手や後継者不足を招かないように、今後も様々な支援策を実施していく。
-----------------------	---